

3:35~3:55 今西 健一 (微生物学)

13. 免疫抑制, MX-1 (K-76COONa) の補体活性阻害効果と免疫抑制効果に関する基礎的検討

河合 達郎・早坂勇太郎・高橋 公太・東間 紘・

太田 和夫 (腎臓病総合医療センター・腎臓外科)

14. 免疫賦活剤 OK-432 の腫瘍内投与における所属リンパ節の抗腫瘍性に関する実験的研究

稲葉 俊三・小川 健治・矢川 裕一・勝部 隆男・小川 智子・

石川 信也・梶原 哲郎 (第2病院・外科)

1. An anti-idiotypic antibody against human IgG₁(λ) insulin autoantibody arises as an inhibitor of the binding to human insulin and as an anti-insulin receptor antibody

(糖尿病センター) 内潟 安子・荷見 澄子・
江口 洋子・平田 幸正

<目的>

自己のインスリンに対して抗体を作るインスリン自己免疫症候群の1患者よりこのインスリン自己抗体をpurifyし, このインスリン自己抗体に対する抗イディオタイプ抗体を作製し, インスリンレセプター, インスリン, インスリン抗体, 抗イディオタイプ抗体の相互の関係を調べてみた.

<方法と結果>

インスリン自己抗体は必ずしも一定の性質を持つわけではないが, ここで使われた affinity-purify したインスリン自己抗体 (TH-IAA) は scatchard 分析にて, インスリンに対して single binding affinity ability を持つ IgG₁(λ) 型であることがわかった.

この TH-IAA を BALB/C マウスに免疫し, spleen cell を mouse myeloma cell と fusion して hybridoma を作り, TH-IAA には bind するが, pooled human IgG には bind しない抗イディオタイプ抗体を作製した. この抗イディオタイプ抗体 (Anti-TH) を affinity column で purify して以下の実験を行った.

Anti-TH がインスリン自己抗体 (TH-IAA) のインスリンとの binding を inhibit するかどうかは competitive inhibition assay で調べた. 1 μ g の TH-IAA は 3.1 μ g の Anti-TH でほぼ完全にインスリンの binding を inhibit することがわかった. また Anti-TH がインスリンレセプターと bind するかどうかは IM-9 人リンパ球, マウス肝細胞から抽出したインスリンレセプターを使って調べた. Anti-TH は両インスリンレセプターと bind し, またこの binding はインスリン自己抗体 (TH-IAA) で inhibit された.

<結論>

インスリン自己抗体 (TH-IAA) に対して作られたマウス IgG 抗イディオタイプ抗体は TH-IAA のインスリンへの binding を inhibit し, またインスリンレセプターに対してはレセプター抗体の性質を示した.

2. IBL-like-T 細胞性リンパ腫の組織像を呈し, マクログロブリン血症の症状を呈した1例

(第2病理) 笠島 武・増田 昭博

(第2病院・内科) 川内喜代隆・杉山 始

IBL-like-T cell lymphoma は多クローン性 γ グロブリン血症を呈する. 我々はマクログロブリン血症 (IgM, κ) を呈した本腫瘍を報告した. 58歳主婦, 結核, 卵巣嚢腫等の既往がある. 昭和62年4月上室性頻拍症で本学第二病院外科に入院, 帯状疱疹, 喘息発作で同院内科に転科. 表在リンパ節腫大, 発熱等出現, 白血球 2,200/mm³, 血中 M 蛋白の単クローン性上昇, 尿中 Bence-Jones 蛋白陽性, ATLA 陰性であった. 同年9月と12月にリンパ節生検, いずれも淡明細胞の出現と血管増生をみる IBL-like-T cell lymphoma の特徴を示した. 扁桃生検でも同種細胞の浸潤をみた. 免疫組織学的には淡明細胞は MT-1, CD5, 8, 4が陽性で MB-1, CD20陰性, IgM, λ 陽性のリンパ形質細胞が介在した. リンパ節細胞の遺伝子分析で T cell receptor β chain constant region に再構成があり, T cell malignancy が示唆された. IBL-like-T cell lymphoma とマクログロブリン血症が合併した報告はない.

3. Donor specific blood transfusion (DST) 後の PHA による細胞内 Ca⁺⁺ influx の検討

(腎臓病総合医療センター・移植免疫研究室)

安尾美年子

(同・泌尿器科) 東間 紘

われわれは移植片生着に有効とされているドナーからの輸血 (DST) のメカニズムを解明するために DST 後にリンパ球混合培養反応 (MLR) を行ない, それらの血清を用いて抗イディオタイプ抗体について検討し